

2000年度JLA中堅職員ステップアップ研修
2001年1月24日（第6回）
齋藤 文男（富士大学経済学部）
小田 光宏（青山学院大学文学部）

領域：高度かつ専門的な図書館の知識・技術の向上（区分B）

レファレンスクエスチョンの処理

1 はじめに（オリエンテーション）

- ・ ご挨拶
 - 講師紹介
 - 本日のプログラムの紹介
- ・ トランザクション記録の意義
 - ツール利用の把握
 - 戦略と手順（プロセス）の再構成

2 レファレンスクエスチョンへの取り組み(1)

- ・ 課題1
- ・ 課題2
- ・ 課題3

3 検索に向けてのストラテジー

- ・ 多様なアプローチの想定（課題1を例にして）
 - 主題と検索語（項目）の広がりの可能性 = 「銭湯」「公衆衛生」
 - 検索する情報の多面的な性質 = 「自治体の情報」「数値情報（物価）」
- ・ プロセスの確認（構想）
 - ツールの選択 = メディア，タイプ（種類），タイトル
 - 検索手段の選定 = 目次，見出しの通覧，索引
 - 結果の成否 = 成功時のリスク，失敗時の改善点

4 レファレンスクエスチョンへの取り組み(2)

- ・ 課題4
- ・ 課題5

5 レフェラルサービスの位置づけ

- ・ 二つの用語
 - 紹介
 - 照会

- ・二つの関係の準備
 - 他の図書館との協力関係（協力レファレンス）
 - 他の機関との連携

- 6 レファレンスクエスチョンへの取り組み(3)
 - ・ 課題6
 - ・ 課題7
 - ・ 課題8

- 7 ネットワーク情報源の可能性
 - ・ 現状
 - 有効性（非商業的情報の発信の拡大）
 - 制約（情報の変化，信頼性など）
 - ・ 「レファレンス」の原義に基づく対応
 - 典拠（再確認可能性）としての「参照」
 - URLの明示
 - 確認日時の提示
 - ・ 効果的な利用方法
 - ヒントとなる情報の入手
 - カレントな情報の入手
 - 裏付け（印刷メディアとの照合）の必要性

- 8 レファレンスクエスチョンへの取り組み(4)
 - ・ 課題9
 - ・ 課題10

- 9 今回の3回分の研修において，扱わなかった情報サービスの領域（おわりに代えて）
 - ・ 原理的理解（歴史的理解）
 - 「利用者教育」との関係
 - 「読書案内」との関係
 - ・ 構造的位置づけ
 - 資料組織技能の向上
 - 情報サービスの経営面の工夫（探索結果の組織化など）
 - ・ 情報検索技能
 - 情報検索にかかわる諸技術
 - データベースの作成技術